

情報モラル教育実践授業報告書

対象学年	小学校 1年
領域	教科指導 (国語科)
指導項目	てがみでしらせよう

情報モラル指導モデルカリキュラム (http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html)			
指導分野	情報社会の倫理		
コード	a1-1	指導事項	約束や決まりを守る。

授業前の児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンなどの携帯情報端末を使ったことのある児童は多いが、その用途は動画視聴やゲームが多い。 ・事前アンケートの結果から、SNSやメールを利用したことがある児童はいない。 ・学校全体で取り組んでいる手紙のやり取りでは、短い言葉のみで伝えようとする傾向があり、相手に自分の意図を正確に伝えられないことがある。
児童の心理的成長過程に応じた指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生の時期は、まだ幼児期の延長線上にあり、自己中心的な傾向が見られることがある。日常のやり取りでも、言葉が足らなかつたり、誤解を招いたりしてトラブルになることが多いことを踏まえ、短い言葉で伝えることの難しさを学ぶことができる教材を選んだ。
期待される児童の変容 (実践のねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙、メールやSNSは、物事や気持ちを伝えるために有効な手段だが、気を付けて使わなければ相手を傷つける道具になってしまう恐れがあることに気付くことができる。
児童の変容を促すための授業の工夫 (ポイント)	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙、メールやSNSの共通点や違いを考えさせる。 ・相手の様子が分かりにくかつたり、言葉が足りないために、誤解が生じやすかつたりすることを体験させる。
利用するコンテンツ等 (サイトのアドレス) または資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教材 ネット社会の歩き方 (http://www2.japet.or.jp/net-walk/) 小学生 57 傷つくようなメッセージが友達から来たら

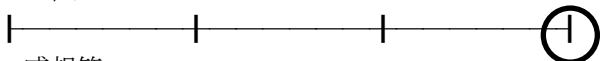
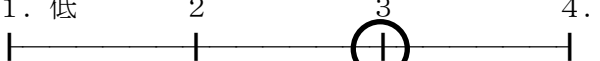
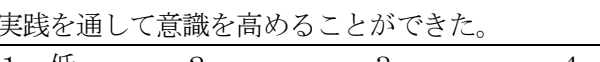
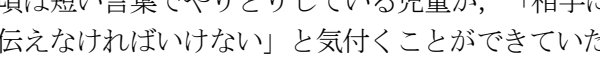
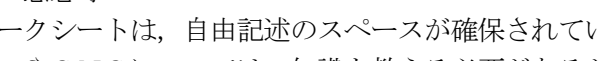

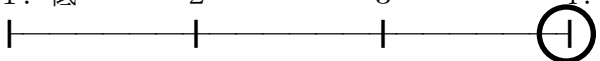
情報機器の利用状況に関する事前アンケート（24人対象）

- 1 スマートフォンなどの携帯情報端末の利用について
 - ・自分専用の携帯情報端末を持っている。（4人）
 - ・家族の携帯情報端末を使っている。（16人）
 - ・携帯情報端末は使っていない。（4人）
- 2 何に利用することが多いか（複数回答可）
 - ・SNS（0人）
 - ・動画視聴（14人）
 - ・ゲーム（13人）

事後アンケート「手紙やメールを送るときに気を付けたいこと」（自由記述）

- ・一言では勘違いされやすいから、相手が分かるように送る。
- ・短い言葉ではなくて、長い言葉にする。
- ・相手につらい思いをさせない。
- ・嫌な言葉は使わないようにする。
- ・「いいよ」や「かわいくない」だけで送らない。
- ・「いいよ」だけでなく、「〇〇だから、△△はいいよ」と理由を書いて送る。
- ・言葉だけでなく、マーク（!や?など）を付ける。
- ・伝えにくいことは電話などで直接話す。

評価

児童について	児童の興味・関心の度合い	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 ・メールやSNSを利用したことがない児童でも、身近にあるものを題材とした資料だったため、興味・関心が高かった。
	児童の理解度	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 ・ほとんどの児童が、事後アンケート「手紙やメールを送るときに気を付けたいこと」で「相手に伝わるように言葉に気を付けたい」と書いており、本実践を通して意識を高めることができた。
	児童の変容の度合い	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 ・日頃は短い言葉でやりとりしている児童が、「相手に分かるようにきちんと伝えなければいけない」と気付くことができていた。
授業について	事前準備の難易度	1. 難 2 3 4. 易  理由・感想等 ・ワークシートは、自由記述のスペースが確保されていれば十分である。メールやSNSについては、知識を教える必要があるが、これらを含めても準備は容易で、時間はかからない。
	指導者にとっての授業展開の難易度	1. 難 2 3 4. 易  理由・感想等 ・メールやSNSについて知らない児童が多いため、その詳しい特徴を事前に指導しておくこと、本実践がより展開しやすいと感じた。
	授業の「ねらい」の達成度	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 ・学習のまとめの場面で、まだメールやSNSを利用したことがない児童でも、「相手を傷つけないように使いたい」と考えることができていた。
	指導方法の効果の度合い	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 ・スマートフォンなどの携帯情報端末の利用は、今後も増えていくものなので、本実践だけでなく継続的に指導を続けていくことが大切だと感じる。
<実践の感想及び反省点等> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生が対象であったが、事後アンケートを分析すると、児童が授業のポイントを十分理解できたと感じた。 ・保護者への注意喚起も含めて、学校公開日を利用して、授業を行うと更に効果が高まると感じた。 ・どの学年でも取り扱える内容だが、小学校4年生頃から、メールやSNSによるトラブルが起り始めるため、その前の段階でどれだけ指導しておくことが大切だと感じた。 ・より効果的なものにするために、継続的かつ計画的に、学校全体で取り組んでいく必要があると感じた。 		

実践例

配当時間		学習のすすめ方	指導のポイント
導入	7分	1 手紙の例を読んで、感じたことを発表する。 ・丁寧な字だと読みやすいし、もらってうれしい。 ・字が雑だと読みたくない。 ・何が書いてあるか分からない。 2 スマートフォンなどの携帯情報端末を使った、メールやSNSについて知る。 3 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">手紙やメールを書くときに気を付けることを考えよう</div>	・文字が丁寧で、読みやすい手紙や文字が雑な手紙、文字が小さい手紙などを提示して、それぞれを比べさせる。 ・手紙、メールやSNSの共通点や、違いについても知らせる。
展開	31分	4 ネット社会の歩き方「傷つくようなメッセージが友達から来たら」を見る。 5 相手に誤解されないようにするには、どのようなメッセージを送ればよかったのか考える。 ・「気にしなくていいよ」と書けばよかった。 ・「いいよ」だけでなく「気を遣わなくてもいいよ」と書けばよかった。 ・メールではなく、電話するか直接会って話せばよかった。 6 手紙やメールを書くときに気を付けることを考え、発表する。	・メールやメッセージなどの短い文章は誤解が起きやすいことを体験させる。 ・相手の様子が分かりにくかったり、言葉が足りないために、誤解が生じやすかったりすることを押さえる。 ・字の読みやすさだけでなく、記号の使い方や内容の分かりやすさについても目を向けさせる。
まとめ	7分	7 本時の学習のまとめをする。	・手紙やメールは、物事や気持ちを伝えるために有効な手段だが、気を付けて使わなければ相手を傷つける道具になってしまう恐れがあることを押さえる。

情報モラル教育を広げるための方策と課題

情報モラル教育を広げるための実践	他の教員に授業を参観してもらい、授業後に研究協議を行った。研究協議の場で、工夫した点や苦労した点、教材の共有など、他の教員がすぐに実践できる取組を行った。
情報モラル教育を広げるための課題	保護者に対しても、情報モラル教育の重要性を知らせたり、スマートフォンなどの携帯情報端末の利便性と危険性について注意喚起を行ったりする必要がある。本実践を学校公開日等で行うとよいと感じた。